



PRESS RELEASE

令和 7 年 11 月 26 日

乳がん患者さんの「心の支え」を目指した AI ピアサポーターを開発**◆発表のポイント**

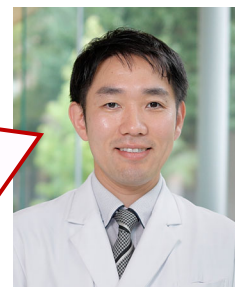
- ・乳がん患者さんが化学療法中に抱える多様な不安や悩みに寄り添う AI ボット（AI ピアサポーター：同じ疾患のある人を助ける活動を行う人）を開発しました。
- ・乳がん経験者として専門医が設計した AI と、日中の多忙な時間帯を避け、患者さんの好きなタイミング（夜間など）で対話が可能になります。
- ・本 AI の介入が患者さんの QOL（生活の質）に与える影響の検証を岡山大学病院で開始します。

岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）医療情報化診療支援技術開発講座の長谷井嬢 教授（特任）（整形外科）は、乳がん患者さんの心理的サポートに特化した AI チャットボット（AI ピアサポーター）を開発しました。本 AI は、長谷井教授（特任）が研究を進めてきた「患者さんの心に寄り添うメンタルケア AI」の技術を基盤としています。乳がん患者さんは、化学療法や手術などに伴う身体的苦痛に加え、再発への恐怖や孤独感など、多様な精神的負担を抱えています。医療スタッフや既存のピアサポートでは時間的な制約や相談への心理的ハードルがあり、患者さんが不安を抱え込んでしまう課題がありました。本 AI は、乳がん経験者のピアサポーターとしての対話が可能であり、患者さんは時間や場所を問わず、気兼ねなく悩みや不安について相談することが可能になります。

本 AI ピアサポーターの実用性を検証するため、学術研究院医療開発領域（岡山大学病院乳腺・内分泌外科）の枝園忠彦教授、岡山大学病院乳腺・内分泌外科の藤原由樹医員を中心とした実証試験を開始します。本試験では、乳がん治療（術後化学療法、手術、再発治療）で入院する患者さんを対象とし、12 週間の AI 利用を通じて、その満足度や QOL 評価体制の実行可能性を検証します。本研究は、AI による心理サポートを、将来的にがん患者さんの標準的なケアとして確立するための、重要な第一歩となります。

◆研究者からのひとこと

がんなどの疾患と闘う患者さんは、身体的な苦痛だけでなく、夜間や休日に一人で抱え込む不安や孤独感といった、目に見えないストレスとも闘っています。私たちは、こうした『医療スタッフには言いづらい』『今すぐ誰かに聞いてほしい』という切実な声に応えるため、AI を用いたメンタルケアサポートの開発を続けてきました。今回開発した AI ピアサポーターは、専門医が多くの患者さんの経験知見を集約して慎重に設計した『乳がん経験者』のペルソナ（AI キャラクター）が、ピアサポーターとして話をしてくれます。AI だからこそ、時間を気にせず、どんな些細な不安も打ち明けられる『心の支え』の一つになれると信じています。本研究を通じて、AI によるサポートが患者さんの QOL 向上にどれだけ貢献できるかを科学的に検証し、将来的にはより多くの患者さんにこの安心感を届けられるよう、開発と改善を重ねてまいります。本取り組みが、がん治療における心理的ケアの新たな選択肢となることを願っています。



長谷井教授



PRESS RELEASE

■発表内容

乳がんは日本人女性で最も罹患率の高いがんであり、30代の若年層から高齢者まで非常に幅広い年齢層が罹患する特徴があります。そのため、患者さんが抱える悩みも、治療の副作用だけでなく、妊孕性（にんようせい）、仕事、育児、介護など、ライフステージによって極めて多様です。そのため、人的なピアサポートは、こうした多様な世代と、その悩みにきめ細かく対応し続けるには限界があります。さらに、患者さんの中心である40～50代は、家庭や社会で多くの役割を担い多忙なため、日中に相談時間を確保できず、夜間に一人で不安を抱え込むケースが多いことも課題でした。QOLを低下させるこれらの要因を、既存のサポート体制だけで解決するのは困難です。

この「悩みの多様性」と「時間の制約」という課題を解決するため、岡山大学の長谷井嬢教授（特任）が持つ患者さんの心に寄り添うAIメンタルケア技術を基盤とし、乳がん患者さんに特化したAIチャットボット（AIピアサポーター）を開発しました。本AIの最大の特徴は、乳腺専門医（岡山大学病院乳腺・内分泌外科の枝園忠彦教授、藤原由樹医員）が多くの患者さんの経験知見を集約して慎重に設計した『乳がん経験者』のペルソナ（AIキャラクター）が、ピアサポーターとして対話に応じる点です。さらに、AIは、ピアサポーター養成のための研修内容を学習しており、医学的な情報提供は行わず、あくまでピアサポーターとしての働きに特化しています。これにより、患者さんが時間や場所を問わず、気兼ねなく悩みや不安を吐き出せる心理的安全性を確保しています。

このAIピアサポーターの効果を検証するために、岡山大学病院で乳がん治療を受ける患者さんを対象に、AIボットを12週間（約3ヶ月間）利用していただく予定です。

■社会的な意義

本研究は、AIによる心理サポートの実用性を検証する重要な第一歩です。従来の医療サポートが時間や場所の制約を受ける中、24時間いつでも患者さんの不安や孤独感に寄り添えるAIは、既存のケアを補完する新しい支援モデルの構築につながります。患者さんが安心して治療に向き合える環境を整備し、将来のがん医療におけるQOL向上に貢献することを目指します。

■研究資金

本研究は、公益財団法人 橋本財団 2024 年度 福祉助成金 福祉機器等開発、JST スタートアップ・エコシステム共創プログラム（PSI2024_S1A10）の支援を受けて実施しました。

<お問い合わせ>

岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）医療情報化診療支援技術開発講座
教授（特任） 長谷井 嬢
（電話番号）086-235-7273



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。